

様式第 1（第 15 条関係）

会 議 録

会議の名称	令和 6 年度 第 1 回和泉市健康増進計画・食育推進計画検討委員会
開催日時	令和 6 年 6 月 11 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分
開催場所	市役所 本館 3A 会議室
出席者 （敬称略）	【委員】 内藤委員長、永田副委員長、中山委員、上嶋委員、沖田委員、西川委員、早崎委員、市川委員、橋本委員、嶋田委員、前田委員、廣田委員、田中委員、上梶委員、石橋委員 【事務局】 吉田副市長、子育て健康部：藤原部長 健康づくり推進室：高橋室長、藤原健康増進担当課長、出口総括主幹、川上総括主査、松本総括主査 受託事業者（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）：善積、草薙、谷口
会議の議題	和泉市健康増進計画・食育推進計画策定に関すること
会議の要旨	1. 委嘱状の交付 2. 市長挨拶 3. 委員紹介 4. 和泉市健康増進計画・食育推進計画検討委員会の概要について 5. 議事 （1）委員長、副委員長の選出について （2）策定スケジュール（案）について （3）「第 4 次健康都市いずみ 21・食育推進計画」策定方針について（案） （4）和泉市の健康づくりと食に係る概況（速報） （5）市民、小学生・中学生、保護者アンケート調査（案）について （6）その他
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要 事項（会議の 公開・非公開、 傍聴人数等）	公開 傍聴人 0 名
審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	

1. 開会

事務局

開会のあいさつ *開会前に委嘱状交付済

副市長

市長が公務のため代理で挨拶を行う。

国では令和3年3月に「第4次食育推進基本計画」が策定され、令和5年5月に「健康日本21(第三次)」が告示された。

このことを受け、大阪府では令和6年3月に「第4次大阪府健康増進計画」「第4次大阪府食育推進計画」を策定している。取組みの一環として先日、6月1日から2日まで大阪南港のATCにおいて「ワクワク EXPO with 第19回食育推進全国大会」が開催され、辻市長も参加したが、多くの来場者があり、和泉市も啓発に寄与したところである。

本市においては平成31年3月に「第3次健康都市いずみ21計画」を策定し、市民が住み慣れた地域において健やかで活力ある生活をおくるため、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、健康寿命の延伸を図り、市民が自分らしくいきいきと暮らせることを目標とし、各団体、市民委員から構成される和泉市健康づくり推進市民会議にて検討してもらいながら計画推進に取り組んでいるところである。

食育の推進においては平成30年3月に「第3次和泉市食育推進計画」を策定し、総合的かつ計画的に推進することを目的に、関係団体の協力と支援のもと取り組んでいるところである。

今年度は両計画の最終年度となることから、これまでの取組みの評価と、その評価を踏まえ、両計画に共通する重要な施策である「健康寿命の延伸」を主軸に両計画を一本化しつつ、健康と食育推進における施策のさらなる継続に向け、より一層推進していきたい。

事務局

委員紹介(資料1)

市職員及び事務局紹介

和泉市健康増進計画・食育推進計画検討委員会の概要について説明(資料2)

平成31年3月に「第3次健康都市いずみ21計画」を平成30年3月に「第3次和泉市食育推進計画」を策定。今年度は両計画の最終年度となることから、これまでの第3次計画の評価を踏まえ、両計画の共通する重要な施策である「健康寿命の延伸」を主軸とし、両計画を一本化しつつ、健康と食育推進における施策の更なる継続に向け、「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」を策定する。

本委員会は、和泉市附属機関に関する条例 第2条の規定に基づき設置し、和泉市健康増進計画・食育推進計画策定に係る調査審議をし、計画素案を策定するもので、委員の任期は、委嘱の日から当該年度の末日までとなっており、18名中15名の委員が出席のため、検討委員会規則第6条3項に則り、本委員会は成立とする。

事務局

資料確認

2. 議事

(1) 委員長、副委員長の選出について

事務局

和泉市健康増進計画・和泉市食育推進計画検討委員会規則第5条第1項に則り、委員の互選により委員長、副委員長各1人を定めることとなっている。選出について提案等お願いしたい。

委員

これまでの健康増進の経緯や経過、見識などを踏まえ、委員長は内藤委員、副委員長は永田委員を推薦したいと考える。

委員全員

異議なし

事務局

委員長に内藤委員、副委員長に永田委員が承認された。

委員長

今回も前回に引き続き計画に関われることを光栄に思う。

昨年脳梗塞を起こし、リハビリを通して日常生活に大きな支障がないまでには回復した。健康づくりに大事な1次・2次・3次予防を自ら体験したようなものである。

今後は3次予防も重要である。発症しても機能回復できるような体制、再発予防の体制作りが重要である。一旦病気になっても困らない社会を作っていけるよう、この計画で発信していきたい。今回は健康増進と食育推進の計画が一体化されている。よりよい計画を作っていきたい。

事務局

会議の内容は録音し、公開する。本日の傍聴予定はない。

(2) 策定スケジュール（案）について

事務局

策定スケジュールについて説明（資料3）

委員長

スケジュールについて質問はあるか。特になければ次の議事に進む。

(3) 「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」策定方針について（案）

事務局

策定方針案を説明（資料4）、引き続き第4次健康都市いずみ21・食育推進計画の構成案を説明（資料5）

委員長

意見があればお願いします。

委員

資料４は文章で残るのか、口頭での説明のみとなる予定か。文章で残す場合は修正が必要な箇所がある。文末の表現を統一してもらいたい。３行目など「もの。」で終わっているものは「ものである。」に、「目指します」は“である調”で「目指す」と修正してもらいたい。

事務局

資料４の策定方針の一部は１章部分に掲載され、推進体制は９章に載ることになる。

委員長

ウェルビーイングという概念は伝わるか。市民向けに理解しやすい表現にする必要があると考えられるものについては、意見をいただきたい。

委員

資料４の２ページ（１）で、「～について」の後には「の」や「は」を入れたほうがよい。

委員長

第５章のスローガンについても意見があればお願いします。

事務局

これまでの計画策定では、様々な課題を踏まえて方針やスローガンを検討していたが、新たな視点として、まずは各委員の専門的知見からスローガンについての意見をいただけるとありがたい。

委員長

第３次健康計画の市民の認知度についてデータはあるか。認知度が低ければ、より強力なスローガンが必要となる。

事務局

第３次計画策定時に概況版を全戸配布し、また周知啓発の際には計画で実施している具体的な取り組みについて周知しているが、認知度について調査は行っておらず、把握できていない。

委員

今までのスローガンは何だったか。

事務局

健康都市いずみ 21 計画では「市民が自分らしくいきいきと暮らせる“健康都市いずみ”」、食育推進計画では「食育」を通じた明るい元気なまち“和泉”～みんながまなび、つたえ、ひろげよう～」を掲げていた。

委員

現行計画のスローガンは長いように思う。

委員長

和泉市に限らず、市民に意識されない計画は多い。また、国の「健康日本 21」についても認知度が低いことが問題になっている。スローガンがうまく作られれば広く市民に知られるものになる。内容も重要だが、周知のためにはスローガンも大事なのでアイデアを出してもらえればと思う。

委員

大阪府の健康寿命は全国の中でもかなり短い。そのあたりもアピールできるようなスローガンで

あるとよい。

委員長

専門職では健康寿命の短さはある程度意識されているが、一般的に市民にはほとんど意識されていないと思う。現実を見ながら問題意識を高めていくことは大事である。よいところは宣伝すればよいが、悪いところも課題として掲載できるとよい。

資料 5 で 8 章が「市民と地域・団体が主体的に取り組む健康づくり・食育推進」となっており、行政の施策の提示だけでなく、市民が主体的に健康づくりを推進していく点を重視して今回は議論できるとよい。前回計画では軽く触れているにとどまるが、市民の連絡会などを活性化して健康づくりを進められればと思う。現状の市民活動状況について事務局から紹介してもらえるか。

事務局

市民健康会議を年に 2 回開催しており、各団体の共通の目標を共有しつつ、次の活動につなげる仕組みがある。また、地域住民ボランティア活動の制度「ヘルスアップサポーターいずみ」があり、保健師とともに地域における活動をおこなっている。

委員長

参画している人から情報提供はあるか。

委員

自分はヘルスアップサポーターの一員であり、スローガンを作成しているが、話し合いの中で案が出てくるため、最初にスローガンを作成するのは難しいと考える。

自分たちが健康であれば次の世代に心配をかけない。未来に向けた目標として、「つなげよう未来に、健康のおくりもの」をキャッチフレーズにした。

委員長

市民グループの活動を府全体で議論する場があったもののコロナ禍以降下火になり、現在では個別的な健康づくりが主となっているが、やはり地域における健康づくりも重要である。和泉市の健康づくりでは、地域における基盤を活かした健康づくりを検討いただきたい。もともとある市民会議の活性化も今後の課題かと思う。

コロナ感染症の拡大に伴い健康づくりも下火になり、運動しない、外に出るのが億劫で人との交流がなくなる、健診受診率が低下するなど様々な影響が出ている。いったん収束した脅威がいつまた出てくるかわからない。その意味では、危機的状況でも縮小しない、レジリエンスの高い、強いしぶとい健康づくりを仕組みの中に入れる必要がある。コロナが流行っても停滞することのない仕組みを盛り込む視点も踏まえて、持続性のある仕組みについて検討してもらいたい。

(4) 和泉市の健康づくりと食に係る概況（速報）

事務局

概況について説明（資料 6）

委員

6 ページの自殺の状況など、説明文で西暦が使われているがグラフは和暦となっている。説明文も和暦に統一したほうがよいと思う。

副委員長

日本人の 8 人に 1 人が慢性腎臓病（CKD）にかかっており、まさに国民病となっている。これに対して取り組む必要がある。

市の課題として「全国と比較して心疾患の死亡率が顕著に高い」とあるが、心疾患のほとんどが心不全の病名で亡くなる。心不全は 80 歳を超えると急激に増える。基礎疾患は糖尿病、高血圧がほとんどだが、あと 10 年ほどすると心不全パンデミックのような状況になる。

医師会としては、患者と医師とで交換日記のようなものをつくり、食事内容の制限や減塩、水分摂取の考え方などについてまさに食育を行い、できるだけ入院をさせないように取り組んでいる。

今年 5 月から、心不全の早期発見の方法として、特定健診の市追加検査で BNP の測定を行う取組も試験的に始めている。

心不全の取組みの次に CKD への対策も医師会として始めている。人工透析は非常に費用がかかるため、腎臓病の罹患者を減らす必要がある。和泉市でも増えているが、70 歳から 74 歳あたりが最も多い。糖尿病は 10 年前から始まるため、働く世代に対し、糖尿病、血圧コントロールをしたい。そのため特定健診の受診率向上に取り組んでおり、受診率の目標は 60%だが、現在 40%弱程度である。CKD を早期に発見するためのマーカー「eGFR」を特定健診の測定項目に追加する必要もあると医師会では考えている。

喫煙の課題は心臓と腎臓（心不全と CKD）であるが、その予防の基本となるのが食育であり、長期的な取組として食育を中心とした介入も重要な要素である。今回、健康増進計画と食育計画が一体化されることは非常によい試みだと思っている。

委員

食生活改善推進委員の活動においては減塩や野菜摂取の推奨が主になっている。糖尿病を予防するためのスローガンなどは現在ないが、腎不全も糖尿病から移行するとのことで、糖尿病予防のための活動にも力を入れなければならないと感じた。

副委員長

透析患者の原疾患としては糖尿病性腎症が最も多いが、治療がうまくいっていることもあり高止まりの状態となっており、今後は高血圧からくる腎硬化症が増える。今後は高血圧予防に向けた減塩などが必要になる。10 年ほどかけて悪化するので今のうちからの対策が必要である。

委員長

高血圧、糖尿病が日本人の二大国民病であり、食事の影響が大きい。ICT の普及などにより体を動かさない人が増えているとのデータもあり、食事に加えて運動不足も課題として併せて対策が必要である。またメンタルヘルスについては職域において対策されていることもあるが、地域ベースで検討することもよいのではないかと。喫煙対策は国が 10 年ほど前から本腰を入れてきたため、ある程度順調なほうではある。タバコや飲酒など生活習慣には様々な要素があるため、全て同様に取り組むか、重点的に取り組むか議論してもらえるとよい。

昨今注目される歯の健康、口腔機能について委員より意見を願います。

委員

口腔の健康管理が全身に繋がることは知られているところである。和泉市では、20 歳以上を対象として歯周病検診を 5 歳ごとに、75 歳以上は毎年実施している。近年は歯科健診を受診した患者で糖尿病を疑われるケースが多くなっている。糖尿病が疑われる患者について、医師会、歯科医師会、

府中病院 3 者連携のもと平成 27 年より歯科から医科へ紹介するモデル事業を実施したところ、HbA1c 数値が下がったとの結果が得られたが、そこからあまり普及していない状況に歯がゆい思いをしている。

やはり早期発見のため健診受診を促していき、結果的に医療費を抑制する方法について検討することが必要である。歯科としては、口腔の状態から全身疾患が疑われる場合の医科との連携が重要な事項と考えている。和泉市行政とともに見える形で取り組んでいければと思う。

委員長

歯科、医科、健康づくりについて、可能な部分は共通化できるとよい。歯科口腔保健計画は和泉市では策定されているか。

事務局

歯科口腔保健について単独での計画は策定していない。

委員長

病気のことがメインの話の流れだが、ウェルビーイングに関連するものとして、QOL 向上の視点からも認知症や介護の予防に生活習慣が関係してくる。健康づくりで疾病予防を行うことが今までの流れではあったが、生活の質や健康寿命の維持、向上に関連付けて計画を立てられるとよい。

特定健診の受診率向上は重要であるが、対象は 40 歳以上であるため、高校卒業以降 40 歳までの AYA 世代と呼ばれる若い世代の健康管理が課題となっている。自覚症状のない元気な世代の健康に対する意識をいかに高めるかについて、今回の計画策定に盛り込むこともひとつの課題ではないかと考えている。

副委員長

高度肥満の学生が多くなっているが、市立総合医療センター肥満外来への受診を指導してもなかなか受診に繋がらない現状がある。本人や親の危機意識が少ないことが背景にあると認識している。やはり食育が重要であり、こども、親、心不全や腎不全など病気の人の 3 者を対象とした食育の取り組みが必要である。

委員長

掲載しているデータ以外で分析が必要と思われるデータがあれば指摘してもらいたい。

委員

かかりつけ医がいるかについてデータはないか。かかりつけ医があることは非常に重要と考えるので、ぜひアンケートで確認してもらいたい。

事務局

既存のデータでは把握が難しいが、アンケートで確認することは可能である。

委員長

特定健診は受診していないものの、かかりつけ医で定期的に健康管理をしているケースもあるため、何らかの形で医療との接点があるかを把握できるとよい。医療に全く接点がなく、症状が出てから医療機関に行き、数値がかなり悪化している人もある。

国民健康保険に限られるだろうが、年に 1 回も医療機関を受診していない人の割合を把握できると、特定健診プラスアルファで、実質的に健康管理していない層がどれだけいるかがわかる。面倒

でない範囲で調査して提示してもらえればと思う。

副委員長

かかりつけ薬局があるかについても確認してもらえるとよい。医者には言えないことを薬局で話すケースもあると聞く。また 24 時間対応の薬局もあるようで、実態を確認できればと思う。

委員長

可能であれば次回までにデータを提示してもらいたい。

(5) 市民、小学生・中学生、保護者アンケート調査（案）について

事務局

アンケート調査について説明（資料 7・8）

委員長

意見があればお願いします。

委員

保護者アンケートについて、0 歳児からスマホを触る家庭もあり、食事や睡眠に直接影響するものであるため、インターネットの家庭内の利用時間についての設問を入れてもらいたい。

7 時半から 19 時半まで 12 時間保育園にいる子どももいるが、朝食をとらずに来る子もいる。帰宅後 2 時間インターネットを触るとごはんを食べずに寝てしまう場合もある。また昨今は幼児の睡眠時間がかかなり遅くなっており、本来 20 時に寝ることを推奨しているが、22 時以降や 24 時をまわってから寝る子どももいるのが現状である。

委員

資料 8-①市民調査 6 ページ、こころの健康について、ストレス解消についての設問はあるが、和泉市は自殺者数も多いので、どの程度ストレスを感じているかの設問があってもよいのではないかと。

資料 8-②小中学生調査 1 ページの問 6「1 日に何回歯みがきをしていますか」の設問で句点「。」が抜けているので入れてもらいたい。

委員

資料 8-①市民調査の問 27、28 には和泉市の「伝統料理や郷土料理」の言葉が出てくるが、料理の名前がわかれば回答しやすいのではないかと。

委員

えびじゃこを使ったものなど伝統料理はたくさんあり、アンケート本文に記載するには数が多いが、大切なことなので入れられるとよい。確かに伝統料理や郷土料理といわれても、若い世代を中心に知らない人が多いと思う。

委員

直前の問 25 など他の設問の※印の注意書きのように、郷土料理についての例示があるとよい。

委員長

回答する人によって設問内容の理解度に差があっては調査の信憑性がなくなるため、同条件で提示する必要がある。ヘルスアップサポーターのチラシを別紙で同封するのであれば、郷土料理につ

いても同様に同封する方法も考えられる。えびじゃこの料理を一品だけ記載するか。

委員

えびじゃこ以外にも多数あると思われるので、一品についてのみ聞くのは適切でないように思う。

副委員長

自身は郷土料理が何か知らない。この調査での郷土料理にはそれほど深い意味があるのではなく、こどもの頃から食べている“おふくろの味”のような料理を郷土料理と捉えてもよいのではないか。秋田から和泉市に嫁いだ人が秋田料理を作ればこちらの郷土料理になるかもしれない。

委員長

食育は健康づくりに資する部分もあるが、もうひとつ農政として、地元の農業を振興する大きな目的もある。問 27 については、地元の料理をしっかりと認識しているかという趣旨の設問である。

郵送料の問題はあるが、地元産品の宣伝にもなるので可能であればチラシを入れてもらってもよい。

事務局

チラシを同封するかは検討する。同封できなくても例示は入れるようにしたい。

委員

市民調査の問 32、食品の安全性に関する設問について、農薬か食品添加物か食中毒かなど具体的にどのようなものを想定されているかわかりづらく、回答しにくいのではないか。

事務局

国の設問を参考に設定しており、特に詳細は想定していない。定義付けする必要があるれば設問を修正することは可能である。

委員長

漠然としていてわかりにくいので、具体的にイメージできるよう特定するのが親切かと思う。食の安全性についても、和泉市で特に問題になっている課題に合わせて特定したほうがよい。余裕があればすべて聞けるとよいが、設問数が多いので、ある程度特定してはどうか。

調査項目を確定させるのはいつか。

事務局

アンケートの送付は7月上旬を考えているが、2～3日のうちに調査票を確定させたいため、意見があれば早めに事務局へ知らせていただきたい。

委員

性別についての設問で、男・女のほかに「その他」の選択肢を入れるのは一般的か。学校現場では男女を聞くアンケート自体なくなっているが、おそらくこの調査ではこの質問が必要で残されているかと思う。この表現の根拠があればよいが、違和感をおぼえる人もいるのではないか。

委員長

他自治体では男・女と併せて「回答したくない」などの選択肢を設けていることが多い。

身長や体重などは男女で大きく異なるため、医学においては、男女別、年齢階級別集計が基本になっている。死亡率や健康寿命など男女別に集計したいため、この設問は必要と考える。

事務局

「その他」の表記については再度検討を行う。

委員長

ほかに意見があれば今週中くらいに意見を提出してもらいたい。

事務局にてアンケート調査項目を確定し、配布の準備を行い、最終的に確定した調査票に関しては委員を代表して私のほうで確認することを了承してもらいたい。

全体をとおして特に意見がなければ、次の議事に進む。

(6) その他

事務局

アンケートについての意見は6月13日木曜日まで、その他の意見については6月27日木曜日までに、FAXまたはメールにて送信をお願いします。

第2回検討委員会は8月29日木曜日、午後1時半から予定している。開催日が近づけば案内を送付する。昨年幸福度、満足度調査をしている。そちらとの整合性や指標との兼ね合いも図りながらではあるが、アンケートやスローガンなど忌憚のない意見をいただきたい。

委員長

以上ですべての議事を終了した。進行を事務局に返す。今後とも協力をよろしくお願いします。

3. 閉会

事務局

今後の進め方等説明

副市長

委員方の意見から学ばせてもらったことも含めて総括し、御礼の挨拶としたい。

文章の書き方について様々な指摘を受けた。常日頃、“行政の真実は細部に宿る”と考えている。意見については大小にかかわらず、考え方の根本につながっていると考えているので、引き続き忌憚のない意見をいただきたい。

冒頭、委員長より第1次から第3次予防についての話があったが、そこに加えて第0次予防も議論していきたい。すなわち、社会環境で介入していかなければならない時期が来たと思っている。関心のない人に関心を持ってもらうことも必要であるが、無関心のまま、気づかないうちに皆が健康になっていくまちづくりも方向性のひとつとしてあるのではないか。「健幸都市」を目指すまちづくりを進める地方公共団体もあるので、そこも目指していきたい。

社会環境に介入してまで健康な和泉市をつくっていききたい理由は、市長の辻宏康、副市長の吉田康人、二人の名前に健康の「康」が入っているからではない。昨今、健康の概念が大きく見直されてきている。我々が目指す健康とは何か。健康とはウェルビーイングではないかという議論もしたい。

先日スポーツ庁長官の室伏氏の話聞いた。健診で出る数値的指標も重要であるが、関節がここまで曲がるなど、ライフパフォーマンスも指標として大切と言われていた。

委員から歯科に関する話もあった。時々自分も歯が痛くなり、歯科医院に行くと、虫歯ではなく

歯ざしりだと言われ、今は毎晩マウスピースをつけて寝ている。歯科医師には口の中の健康について診てもらっているので、虫歯の本数のみが歯の健康・口の健康ではないとの考え方も明記しなければならない。

インターネットの使用や睡眠、職場におけるパワハラ、セクハラなども、女性、男性を問わず健康にかかわる問題であるため、それらについても議論できるとよい。

食育についても、健康増進や栄養向上の観点のみでなく、食べることからくる喜びにもつながる。西川委員がよく言われるが、人生で最初の選択は赤ちゃんの手づかみ食事である。そこで我々人間は生まれて初めてものを選ぶことを学ぶが、その意味についてももしっかり議論していきたい。

食をめぐる争い、平和、食を中心とする家庭や地域の強化についても議論したい。

さきほど事務局より紹介のあった和泉市住民幸福度・満足度調査について、今幸せを考える際に重要なポイントは何か聞くと、あらゆる性や年代、あらゆる地域で等しく高いのが、のんびり、リラックス、心の余裕、である。女性のためのあらゆる世代では、経済的豊かさ、家庭とのつながり、体の健康がそこに加わる。健康という概念をより広く「ウェルビーイング」まで伸ばして考えると、そういった議論もしなければならない。

スローガンは今日決めて各論に落としこんでいく議論を考えていたが、その議論は集結しなかった。確かに議論しながら徐々に固めて集約する方法論もあるので、いずれ基本目標、スローガンを決めなければならないことを念頭に置いて検討委員会を進めたい。

以上を含め、アンケートの最終項目を確定する作業も最後まで実施したい。アンケートへの意見を送付してもらえれば、句読点が抜けていることなどと同じくらい、抜け落ちがないよう、しっかり我々のほうで確認し、今後も良い検討委員会にしていきたい。

引き続き、協力、指導いただけるようお願いしたい。本日は誠にありがとうございました。

事務局

以上をもって、第1回検討委員会を閉会する。